

## 様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

## （1）大学・学科の設置理念

## ①大学

大阪経済大学は、経済学部、経営学部、情報社会学部、人間科学部を設置し、建学の精神「自由と融和」と教学の理念「人間的実学」に基づいて、市民としての良識とたくましい実践力を備えた多彩な職業人の育成を目指してきた。グローバル化が進展する中で、急速に変化する環境に対応し世界で活躍できる人材をさらに育成するため、国際共創学部国際共創学科の設置を構想し、今回申請に至った。大阪経済大学では「市民としての良識とたくましい実践力を備えた多彩な職業人」を育成するために、以下のとおり学位授与の指針であるディプロマ・ポリシー（DP）を設定している。

## 【全学DP1】

新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力

- ・実践的な思考法を身に付け現代社会の諸問題を発見し、課題解決の道筋を立てることができる。

## 【全学DP2】

各学問分野における実学的な専門知識と技能

- ・幅広い教養と専門分野に関する科学的な知識・技能を身に付け、社会生活に役立てることができる。

## 【全学DP3】

社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力

- ・多様性を尊重し、主体的に他者と関わり、地域社会・企業社会・国際社会とつながることができる。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

国際共創学部国際共創学科では、大学の定める全学的な学位授与の方針および学部の教育理念である「グローバルな視点で社会や経済を見据え、多文化への理解にもとづき、人々と未来を共に創り出していくこと」のもと、養成する人材像として掲げる「国内外の地域が抱える社会・経済課題に対応するために、多様な価値観や文化への関心を持ち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材」を養成するため、以下のディプロマ・ポリシー（DP）を設定している。

## 【国際共創学部DP1】

- ・グローバルな視点を持って、本質的な課題について、発見し、考察できる（洞察力）
- ・関心のある「社会・文化」「経済・経営」の課題に対して、解決に向けて立案できる（構想力）

## 【国際共創学部DP2】

- ・国内外の情報や知見を収集・調査・分析することができる（技能）
- ・国内外の「社会・文化」「経済・経営」に関する知識を身につけている（知識）

## 【国際共創学部DP3】

- ・語学を活用し、多様な人々の考えを理解し、コミュニケーションをとることができる（共感力）
- ・多様な文化的背景の人々とつながり、共創に向けて行動できる（実践力）

## （2）教員養成の目標・計画

## ①大学

大阪経済大学は、経済学部、経営学部、情報社会学部、人間科学部を設置し、これまでに多くの教員を送り出してきた。

学則にもとづく「人材養成の目的に関する規程」では、「教員養成課程は、建学以来、多くの教員を養成してきた伝統を踏まえ、また新しいグローバル時代の社会的要請に応えるために教育基本法、学校教育法および本学の教育理念である『人間的実学』に基づき、『生きる力』や『確かな学力』を真に育むことのできる中等教育の教員養成を目指している」（第6

条)と規定している。

ここに示されるように、本学の教員養成に対する理念は、教育基本法や学校教育法の精神にのっとり、本学の教育理念である「人間の実学」を具現化した教員としての「豊かな人間性」「幅広い教養」「専門的力量」を養成することにある。

ここで言う「豊かな人間性」とは、生徒を愛し、励まし、共に育ちあう心を持った人間味豊かな教員になることを意味する。「幅広い教養」は、グローバル化と価値の多様化が進行する現代社会において単なる博学多識ではなく、広い活用力と深い良識を身につけることである。「専門的力量」は、教科に関する専門的知識を基盤としながら、授業場面で確かな学力を形成し、生徒の発達に即して適切な指導を行なう能力である。

本学における教員養成は、以上の理念にもとづき、教員に求められる基礎的な知識、理論を理解するだけにとどまらず、実践的な指導能力を高めることを目指している。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

新たに設置を申請する国際共創学部国際共創学科では、教育理念として「グローバルな視点で社会や経済を見据え、多文化への理解にもとづき、人々と未来を共に創り出していくこと」を掲げ、養成する人材像を「国内外の地域が抱える社会・経済課題に対応するために、多様な価値観や文化への関心を持ち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材」としている。このためには、「語学力・思考力・情報活用力」を基盤として、「洞察力・構想力・共感力・実践力」を身につける必要があり、このような能力を身につけるためのカリキュラムを編成している。

グローバル化の進展により、我が国における英語教育の更なる充実が指摘される中、今後の英語科教員には、英語指導力だけでなく、多文化を理解し様々な背景の人々とコミュニケーションがとれる人材が求められている。国際共創学部国際共創学科が養成する、グローバルな視点で社会や経済を見据え、多文化への理解に基づき、人々と未来を共に作り出すグローバル人材としての素養は、グローバル化が進展する時代において、今後の英語科教員に求められる重要な素養であると考えられる。国際共創学部国際共創学科で養成する「多様な社会・文化を理解し、グローバルな視点で多文化共生社会の在り方を示すことができる英語科教員」は、中学・高校を問わず今後求められる英語教育の専門職人材として期待に応えることができる。

国際共創学部国際共創学科では、学科専攻科目として、基盤科目、専門科目、発展科目、演習科目、を配置し、体系的に前述の能力を身につけられるようカリキュラムを編成している。基盤科目は、「経済・経営」「社会・文化」の基礎と「語学力・思考力・情報活用力」を養う科目であり、入門科目と基礎科目から編成される。専門科目は、国際共創について理解し専門性を高めるために設置するカリキュラムである。すべての領域に共通する基礎的な専門科目である基幹科目と専門領域ごとに編成される領域科目から編成される。領域科目は、自身の興味や将来を見据えて学生が選択して履修するものであり、「グローバル文化領域」「国際社会領域」「政策デザイン領域」「社会創造領域」の4つの領域から構成される。発展科目は、より高い「洞察力・構想力・共感力・実践力」と語学力を身につける科目であり、共創科目と英語アドバンスト科目から編成される。共創科目では、海外および国内での現地実習を行う科目が配置されている。英語アドバンスト科目は、教科に関する専門科目を含む英語科目を配置している。演習科目では、初年次に実施する「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」から4年次に履修する「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」まで、少人数の演習形式で実施する科目である。

「豊かな人間性」「幅広い教養」と英語科教員に求められる素養を身につけるとともに、英語科教員に必要な「専門的力量」を身につけるために、具体的には以下のとおり教職課程カリキュラムを編成する。

1年次前期では教職の基礎となる知識、能力を習得するとともに、教職課程を履修する意思を固めることを目的として、「教育学入門」などを履修する。1年次後期では現代の教育課題をふまえて教職の意義や教員の役割、職務について理解し、教職に必要な使命感や責任感、教育的愛情を身につけていくため、「教職概論」や「現代と教育」などを履修する。また、教科に関する専門科目以外の科目においても、全学共通科目として「英語Ⅰa [R&W]」「英語Ⅰb [L&S]」を、学部科目として「Basic English A」「Basic English B」を必修科目とすることにより、英語の基礎力を養う。英語以外の学部科目として、1年前期においては、入門科目の「経済学概論Ⅰ」「社会学概論」などを通じて、職業人として必要な経済・

社会に関する基本的知識を身につける。1年次後期の基礎科目では、「国際経済論」「国際社会論」などを通じて、国際感覚と多様な価値観を理解する基礎を形成する。さらに1年次末の春季休業期間に実施する「Development of Multicultural Awareness」は、必修科目として3週間の海外短期留学（ハワイ大学マノア校）を実施するものであり、初年次から国際感覚と英語力の向上に取り組む。

2年次前期では、教育の理念、教育の歴史・思想についての基礎知識、心理・発達論的な基礎知識および教育課程、教育方法に関する基礎知識を習得し、子どもの発達段階や状況に応じた指導ができるようになるための基礎を培うため、「学校と教育の歴史」「教育課程論」「教育方法論」などを履修する。2年次後期では、教育の社会的、制度的事項について理解するために「教育行政学」を履修するとともに、個々の子どもの特性や状況に応じた対応ができるようになるための基礎を培うために「教育相談の理論と方法」を履修する。また、2年次において教科の指導科目として、「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」を通じて、中学校および高等学校の学習指導要領や指導計画等について理解し、学習指導要領に基づく指導方法について理解を深める。教科に関する専門科目については、2年次には、「Reading and Writing A」「Listening and Speaking A」「English Communication A」などの英語コミュニケーション科目を履修し、英語力の向上に取り組む。また異文化理解科目として、「多文化コミュニケーション」や「多文化共生論」などを履修し、異文化への理解を深める。加えて、教科に関する科目以外の学科専攻科目として「国際社会と日本文化」「国際社会と人権」「宗教と社会」など、国際社会を具体的に理解するための科目を履修する。希望する履修者は、選択科目である「グローバル・リサーチA」「グローバル・リサーチB」において、アメリカ・タイでの現地学修を受講することが可能である。

3年次前期では、「英語学概論」「英文法」「英語文学A」「地域研究A」などの教科に関する科目、および、教科の指導法として「英語科教育法Ⅲ」を履修する。また、教科以外の指導法について理解を深めるために「特別活動および総合的な学習の時間の指導法」を履修する。そして、4年次に受講する教育実習を見据えながら、他者の意見の受容や連携協力、保護者や地域との連携、集団における役割遂行など社会性や対人関係能力を身につけるために「学校インターンシップ」を履修する。3年次後期では、教科に関する科目として「英語音声学」「英語文学B」などを、教科の指導法として、「英語科教育法Ⅳ」を履修する。また、子どもの心理に関する理解を深めるために「教育心理学概論」を、特別な支援を必要とする子どもたちに対する理解を深め、子どもに対して公平かつ受容的な態度で接することができるようになるために「特別支援教育概論」を、教育現場におけるICT活用について具体的に学ぶために「教育におけるICT活用」を履修する。教科に関する科目以外では、3年次には、国際社会をより具体的に理解するための科目として、「グローバル文化領域」における「共生社会論」「平和と紛争」などや「国際社会領域」における「国際保健論」「国際協力論」などを履修する。これらの科目には、前述した今後の英語教育の専門職人材として求められる国際共創学部で養成する「多様な社会・文化を理解し、グローバルな視点で多文化共生社会の在り方を示すことができる英語科教員」の養成に貢献できる科目であると考えられる。また選択科目として履修希望者は、ベトナムにおいて現地の人々と協力しながら課題解決に取り組む「国際共創プログラム」を履修することが可能であり、国際感覚の養成に実践的に取り組むことができる。

4年次前期では「教育実習」における実際の学校での教育体験を通じて、実践的な教材分析能力、授業構想力、教材開発力、授業展開力、表現技術、学級経営力などを身につける。また、教育実習後に「教職実践演習」を履修することにより、教員として必要とされる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、生徒理解に関する事項、教科等の指導力に関する事項についての習得状況を「履修カルテ」などにもとづきながら確認するとともに、教師としての総合的な力量をさらに高めていく。教科以外の科目として、「卒業研究Ⅰ」においてこれまで学修した内容を踏まえて卒業論文のテーマ設定と基礎研究に取り組む。さらに「卒業研究Ⅱ」において、自ら設定したテーマについて研究と考察を行い、卒業論文としてまとめ発表する。

以上のカリキュラムを通じて、英語科教員に求められる英語力と英語指導力を身につけるとともに、今後の英語科教員に求められる「洞察力、構想力、共感力、実践力」を身につけた「多様な社会・文化を理解し、グローバルな視点で多文化共生社会の在り方を示すことができる英語科教員」を養成する。

### (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

中学校教諭一種免許状「外国語（英語）」および高等学校教諭一種免許状「外国語（英語）」の教職課程は、英語で「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動を基盤として、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目的とした授業を実施できる教員を養成することを目指すものである。このようなコミュニケーションを図るためには、その背景にある文化、社会や世界、他者との関わりを理解し、目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することが必要である。国際共創学部国際共創学科では、養成する人材像を「国内外の地域が抱える社会・経済課題に対応するために、多様な価値観や文化への関心を持ち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材」としており、語学力・語学指導力だけでなく、文化、社会や世界、他者との関わりを理解し実践できるカリキュラムを編成している。特に2年後期以降は、「グローバル文化領域」「国際社会領域」「政策デザイン領域」「社会創造領域」の4つの専門領域からカリキュラムを構成し、国際感覚を有し多様な価値観を理解するための体系的なカリキュラムを編成している。

中学校教諭一種免許状「外国語（英語）」では、簡単な情報や考え方を理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションに必要とされる資質・能力を養成することが求められる。教職課程に定められた科目を履修することによって、指導の基盤となる語学力と指導力を養うとともに、国際共創学部国際共創学科の専門科目を履修することにより、背景となる文化、社会や世界、他者との関わりを理解した教員を養成することが可能である。

高等学校教諭一種免許状「外国語（英語）」では、より高度な外国語運用能力として、各言語活動だけでなくこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、的確に理解しあったり、適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションに必要とされる資質・能力を養成することが求められる。このためには、中学校教諭一種免許状「外国語（英語）」と同様に、背景となる、文化や社会、世界の現状や他者との関わりを理解することに加え、様々な情報を理解・整理し、それらを伝える能力が求められる。国際共創学部国際共創学科では「洞察力・構想力・共感力・実践力」の養成を目的としており、入門科目である「データ分析と活用」「ロジカルシンキング」、基盤科目である「クリエイティブシンキング」などの科目を通じて、様々な情報を理解・整理し、それらを伝える能力を有し、それを指導できる人材を養成できる。

## 様式第7号イ

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

## (1) 各組織の概要

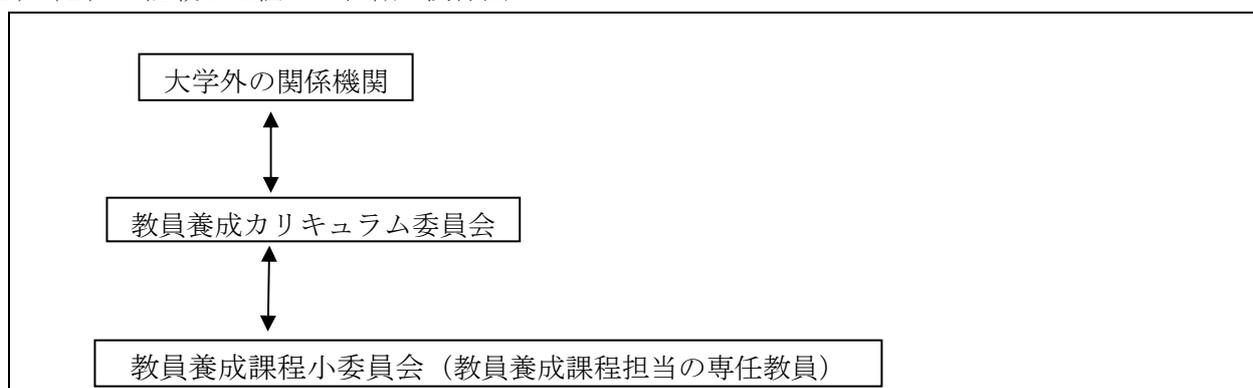
①

組織名称：	教員養成カリキュラム委員会
目的：	教員養成カリキュラムに関し、円滑、適正な運営を図るため、次の各事項を審議する。 (1)教員養成課程のカリキュラムに関する事項 (2)教職指導の企画、立案、実施に関する事項 (3) 教職課程の自己点検・評価に関する事項 (4)その他、教員養成課程の運営に関する事項
責任者：	教員養成カリキュラム委員長
構成員(役職・人数)：	(1) 副学長または学長補佐(教務担当) (1名) (2)各学部から選出された専任教員 (4名) (3)教員養成課程担当の専任教員 (4名) (4)教務部長 (1名) (5)教務二課長 (1名)
運営方法：	月 1 回程度、教員養成課程担当の専任教員と事務担当者が、現状の懸案・検討事項について話し合いを行った上で委員会を開催し、全学的に責任を持ち教職課程運営を行う体制を構築している。

②

組織名称：	教員養成課程小委員会
目的：	教職カリキュラム委員会議題の検討
責任者：	教員養成課程担当の専任教員から1名選任
構成員(役職・人数)：	(1)教員養成課程担当の専任教員 (4名) (2)教務二課長 (1名) (3)教職課程事務室担当者 (1名)
運営方法：	教員養成課程担当の専任教員と事務担当者が、現状教職課程の懸案・検討事項について話し合いを行い、教職カリキュラム委員会に提案する。

## (2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

## Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

### (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

大学近隣の小・中・高等学校と連携し、学校支援を行う「学校インターンシップ」科目において、学校現場からの教職課程に対する要望を聞くことで、学部等における教育に反映している。

### (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 大阪市学校支援学生ボランティア

連携先の調整方法： 大阪市を通じボランティア依頼のあった学校園と直接支援内容等を相談・調整する。

具体的な内容： 特別な支援が必要な子どもたちの学習支援や活動補助

## Ⅲ. 教職指導の状況

### ・教職課程のガイダンス

1年次から4年次に渡って必ず各1回、「履修ガイダンス」「進路ガイダンス」「実習ガイダンス」等必要に応じたガイダンスを開催し、学生への周知徹底を図っている。

### ・履修指導

教職関係科目の履修指導について、各学年段階に沿って教職科目を適切に配置することにより4年次の教育実習を迎えるまでに関連科目をすべて履修できるようにし、教員免許の円滑な取得ができるよう配慮している。

### ・各種相談への対応

オフィスアワーを設定し、学生への助言・指導等ができる体制作りをしている。4年次には、教育実習に備えて模擬授業を全員が実施する機会をつくり、また、正課講義「教育実習Ⅰ・Ⅱ」に限らず学生が自主的に練習できる教室を確保するなどして、授業力の向上に努めている。

様式第7号ウ

&lt;国際共創学科&gt;(認定課程:中学校教諭第一種免許状「英語」)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>○「教育学入門」などを履修することによって、教職の基礎となる知識、能力を習得するとともに、教職課程を履修する意思を固める。</p> <p>○「経済学概論Ⅰ」「社会学概論」などの履修を通じて、英語科の指導に必要となる幅広い教養を身につける。</p> <p>○「アカデミックスキルⅠ」などの履修を通じて、「思考力・判断力・表現力等」とは何かについて基本的な事項を理解し、自ら実践できる力を培う。</p>
	後期	<p>○「教職概論」や「現代と教育」を履修することによって、現代の教育課題をふまえた教職の意義や教員の役割、職務について理解し、教職に必要な使命感や責任感、教育的愛情を身につける。</p> <p>○「Development of Multicultural Awareness」や「国際社会論」などの履修を通じて、英語科の指導に必要となる幅広い教養と、多様な文化や背景を理解する国際感覚の基礎を身につける。</p> <p>○「アカデミックスキルⅡ」「ロジカルシンキング」などの履修を通じて、「思考力・判断力・表現力等」とは何かについて基本的な事項を理解し、自ら実践できる力を培う。</p>
2年次	前期	<p>○「学校と教育の歴史」や「教育課程論」、「教育方法論」など主に教育の基礎理論に関する科目を履修することによって、教育の理念、教育の歴史・思想についての基礎知識、心理・発達論的な基礎知識および教育課程、教育方法に関する基礎知識を習得し、子どもの発達段階や状況に応じた指導ができるようになるための基礎を培う。</p> <p>○「Reading and Writing A」、「Listening and Speaking A」などの履修を通じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」の指導を支える英語運用能力を身につける。</p> <p>○「多文化コミュニケーション」などを通じて、多様な文化や背景、異文化とのコミュニケーションにおける現状と課題を理解し、それらを踏まえて他者とのコミュニケーションを行う力を培う。</p> <p>○「英語科教育法Ⅰ」においては、学習指導要領についての理解を深めるとともに、教材研究、学習指導案作成の方法を身につける。</p>
	後期	<p>○「教育行政学」を履修することによって教育の社会的、制度的事項について理解するとともに、「教育相談の理論と方法」の履修を通じて個々の子どもの特性や状況に応じた対応ができるようになるための基礎を培う。</p> <p>○「Reading and Writing B」、「Listening and Speaking B」などの履修を通じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」の指導を支える英語運用能力を身につける。</p> <p>○「英語科教育法Ⅱ」においては、学習指導要領についての理解をさらに深めるとともに、教材研究、学習指導案作成、授業技術等の力量を高める。</p>
3年次	前期	<p>○「英語学概論」「英文法」「英語文学A」を通じて、英語学に関する理解を深め、英語学的知見を身につける。</p> <p>○「特別活動および総合的な学習の時間の指導法」を通じて、教科以外の時間の指導法について理解を深める。</p> <p>○4年次での教育実習を見通しながら、「学校インターンシップ」などを通じて、他者の意見の受容や連携協力、保護者や地域との連携、集団における役割遂行など社会性や対人関係能力を身につける。</p> <p>○「地域研究A」等を通じて、異文化への理解を深め国際感覚をさらに養う。</p> <p>○「国際協力論」「国際保健論」などを通じて、国際的視点での現状や課題を理解し、英語科教員として必要な国際感覚を身につける。</p> <p>○「英語科教育法Ⅲ」においては、様々な教育実践事例にも学びながら、教材研究、学習指導案作成、授業技術等の力量をさらに高める。</p>
	後期	<p>○「英語音声学」「英語文学B」の履修を通じて、教科内容に関する理解を深める。</p> <p>○「地域研究B」「地域研究C」等を通じて、異文化への理解を深め国際感覚をさらに養う。</p> <p>○「教育心理学概論」を通じて子どもの心理に関する理解を深めるとともに、「特別支援教育概論」を通じて特別な支援を必要とする子どもたちに対する理解を深め、子どもに対して公平かつ受容的な態度で接することができるようになる。</p> <p>○「教育におけるICT活用」では、「教育方法論」で培った知識を前提としながら、教育現場におけるICT活用について具体的に学び、一定程度の活用能力を形成する。</p> <p>○「英語科教育法Ⅳ」においては、4年次の教育実習を明確に見据えながら、教材研究、学習指導案作成、授業技術等の力量を教育現場においてしっかりと授業を担当できる域にまで高める。</p>
4年次	前期	<p>○「教育実習」における実際の学校での教育体験を通じて、実践的な教材分析能力、授業構想力、教材開発力、授業展開力、表現技術、学級経営力などを身につける。</p> <p>○これまでの学習・研究を通じて見出されたテーマを「卒業研究Ⅰ」において追究し、卒業論文の基礎研究を行い、発表等を行う。これらの経験を通じて、「思考力・判断力・表現力等」の力量をさらに高めていく。</p>
	後期	<p>○教育実習後に「教職実践演習」を履修することによって、教員として必要とされる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、生徒理解に関する事項、教科等の指導力に関する事項についての習得状況を「履修カルテ」などにもとづきながら確認するとともに、教師としての総合的な力量をさらに高めていく。</p> <p>○これまでの学習・研究を通じて見出されたテーマを「卒業研究Ⅰ」において追究し、卒業論文としてまとめ、発表等を行う。これらの経験を通じて、「思考力・判断力・表現力等」の力量をさらに高めていく。</p>

様式第7号ウ（教諭）

&lt;国際共創学科&gt;（認定課程：中学校教諭第一種免許状「英語」）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教育学入門			英語 I a[R&W]	Basic English A
					英語 I b[L&S]	アカデミックスキル I
					データサイエンス概論	経済学概論 I
					スポーツ実技A	社会学概論
	後期	教職概論		現代と教育	データ分析と活用	Basic English B
				教育・学校心理学	スポーツ実技B	英語 II a[R&W]
						英語 II b[L&S]
						アカデミックスキル II
						Development of Multicultural Awareness
						ロジカルシンキング
						経済学概論 II
						国際経済論
2年次	前期	学校と教育の歴史	Reading and Writing A	人権教育論		国際文化論
		教育方法論	Listening and Speaking A			Japanese Culture
		教育課程論	English Communication A			国際社会と人権
		生徒・進路指導論	多文化コミュニケーション			国際社会と日本文化
		英語科教育法 I	Global Issues			グローバル・リサーチA
	後期					グローバル・リサーチB
		教育行政学	Reading and Writing B	教育と社会	日本の憲法	宗教と社会
		道徳教育の理論と実践	Listening and Speaking B	障害者・障害児心理学		ジェンダーと法
		教育相談の理論と方法	English Communication B			キャリア開発論
		英語科教育法 II	多文化共生論			国際関係論
3年次	前期	特別活動および総合的な学習の時間の指導法	英語学概論	学校インターンシップ		平和と紛争
		子どもの臨床心理学	英文法			国際協力論
		英語科教育法 III	英語文学A			共生社会論
			地域研究A			国際共創プログラム
	後期	特別支援教育概論	英語音声学			国際保健論
		教育心理学概論	英語文学B			国際社会と外交
		教育におけるICT活用	地域研究B			
		英語科教育法 IV	地域研究C			
			国際社会と教育			
4年次	前期	教育実習 I				卒業研究 I
		教育実習 II				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究 II

## 様式第7号ウ

＜国際共創学科＞（認定課程：高等学校教諭第一種免許状「英語」）

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>○「教育学入門」などを履修することによって、教職の基礎となる知識、能力を習得するとともに、教職課程を履修する意思を固める。</p> <p>○「経済学概論Ⅰ」「社会学概論」などの履修を通じて、英語科の指導に必要となる幅広い教養を身につける。</p> <p>○「アカデミックスキルⅠ」などの履修を通じて、「思考力・判断力・表現力等」とは何かについて基本的な事項を理解し、自ら実践できる力を培う。</p>
	後期	<p>○「教職概論」や「現代と教育」を履修することによって、現代の教育課題をふまえて教職の意義や教員の役割、職務について理解し、教職に必要な使命感や責任感、教育的愛情を身につける。</p> <p>○「Development of Multicultural Awareness」や「国際社会論」などの履修を通じて、英語科の指導に必要となる幅広い教養と、多様な文化や背景を理解する国際感覚の基礎を身につける。</p> <p>○「アカデミックスキルⅡ」「ロジカルシンキング」などの履修を通じて、「思考力・判断力・表現力等」とは何かについて基本的な事項を理解し、自ら実践できる力を培う。</p>
2年次	前期	<p>○「学校と教育の歴史」や「教育課程論」、「教育方法論」など主に教育の基礎理論に関する科目を履修することによって、教育の理念、教育の歴史・思想についての基礎知識、心理・発達論的な基礎知識および教育課程、教育方法に関する基礎知識を習得し、子どもの発達段階や状況に応じた指導ができるようになるための基礎を培う。</p> <p>○「Reading and Writing A」、「Listening and Speaking A」などの履修を通じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の指導を支える英語運用能力を身につける。</p> <p>○「多文化コミュニケーション」などを通じて、多様な文化や背景、異文化とのコミュニケーションにおける現状と課題を理解し、それらを踏まえて他者とのコミュニケーションを行う力を培う。</p> <p>○「英語科教育法Ⅰ」においては、学習指導要領についての理解を深めるとともに、教材研究、学習指導案作成の方法を身につける。</p>
	後期	<p>○「教育行政学」を履修することによって教育の社会的、制度的事項について理解するとともに、「教育相談の理論と方法」の履修を通じて個々の子どもの特性や状況に応じた対応ができるようになるための基礎を培う。</p> <p>○「Reading and Writing B」、「Listening and Speaking B」などの履修を通じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の指導を支える英語運用能力を身につける。</p> <p>○「英語科教育法Ⅱ」においては、学習指導要領についての理解をさらに深めるとともに、教材研究、学習指導案作成、授業技術等の力量を高める。</p>
3年次	前期	<p>○「英語学概論」「英文法」「英語文学A」を通じて、英語学に関する理解を深め、英語学的知見を身につける。</p> <p>○「特別活動および総合的な学習の時間の指導法」を通じて、教科以外の時間の指導法について理解を深める。</p> <p>○4年次での教育実習を見通しながら、「学校インターンシップ」などを通じて、他者の意見の受容や連携協力、保護者や地域との連携、集団における役割遂行など社会性や対人関係能力を身につける。</p> <p>○「地域研究A」等を通じて、異文化への理解を深め国際感覚をさらに養う。</p> <p>○「国際協力論」「国際保健論」などを通じて、国際的視点での現状や課題を理解し、英語科教員として必要な国際感覚を身につける。</p>
	後期	<p>○「英語音声学」「英語文学B」の履修を通じて、教科内容に関する理解を深める。</p> <p>○「地域研究B」「地域研究C」等を通じて、異文化への理解を深め国際感覚をさらに養う。</p> <p>○「教育心理学概論」を通じて子どもの心理に関する理解を深めるとともに、「特別支援教育概論」を通じて特別な支援を必要とする子どもたちに対する理解を深め、子どもに対して公平かつ受容的な態度で接することができるようになる。</p> <p>○「教育におけるICT活用」では、「教育方法論」で培った知識を前提としながら、教育現場におけるICT活用について具体的に学び、一定程度の活用能力を形成する。</p>
4年次	前期	<p>○「教育実習」における実際の学校での教育体験を通じて、実践的な教材分析能力、授業構想力、教材開発力、授業展開力、表現技術、学級経営力などを身につける。</p> <p>○これまでの学習・研究を通じて見出されたテーマを「卒業研究Ⅰ」において追究し、卒業論文の基礎研究を行い、発表等を行う。これらの経験を通じて、「思考力・判断力・表現力等」の力量をさらに高めていく。</p>
	後期	<p>○教育実習後に「教職実践演習」を履修することによって、教員として必要とされる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、生徒理解に関する事項、教科等の指導力に関する事項についての習得状況を「履修カルテ」などにもとづきながら確認するとともに、教師としての総合的な力量をさらに高めていく。</p> <p>○これまでの学習・研究を通じて見出されたテーマを「卒業研究Ⅰ」において追究し、卒業論文としてまとめ、発表等を行う。これらの経験を通じて、「思考力・判断力・表現力等」の力量をさらに高めていく。</p>

様式第7号ウ（教諭）

＜国際共創学科＞（認定課程：高等学校教諭第一種免許状「英語」）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育学入門			英語 I a[R&W]	Basic English A
					英語 I b[L&S]	アカデミックスキル I
					データサイエンス概論	経済学概論 I
					スポーツ実技A	社会学概論
	後期	教職概論		現代と教育	データ分析と活用	Basic English B
				教育・学校心理学	スポーツ実技B	英語 II a[R&W]
						英語 II b[L&S]
						アカデミックスキル II
						Development of Multicultural Awareness
						ロジカルシンキング
						経済学概論 II
						国際経済論
				国際社会論		
2年次	前期	学校と教育の歴史	Reading and Writing A	人権教育論		国際文化論
		教育方法論	Listening and Speaking A			Japanese Culture
		教育課程論	English Communication A			国際社会と人権
		生徒・進路指導論	多文化コミュニケーション			国際社会と日本文化
		英語科教育法 I	Global Issues			グローバル・リサーチA
						グローバル・リサーチB
	後期	教育行政学	Reading and Writing B	道徳教育の理論と実践	日本の憲法	宗教と社会
		教育相談の理論と方法	Listening and Speaking B	教育と社会		ジェンダーと法
		英語科教育法 II	English Communication B	障害者・障害児心理学		キャリア開発論
			多文化共生論			国際関係論
3年次	前期	特別活動および総合的な学習の時間の指導法	英語学概論	学校インターシッブ		平和と紛争
		子どもの臨床心理学	英文法			国際協力論
			英語文学A			共生社会論
			地域研究A			国際共創プログラム
	後期	特別支援教育概論	英語音声学			国際保健論
		教育心理学概論	英語文学B			国際社会と外交
		教育におけるICT活用	地域研究B			
			地域研究C			
			国際社会と教育			
4年次	前期	教育実習 I				卒業研究 I
		教育実習 II				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究 II